

災害時、すぐに動ける保健師になるために！ 経験からの継承

健康危機管理分野においては、これまでに経験したことのない課題に立ち向かい活動する等、保健師に求められる役割は拡大の一途をたどっています。

そのような中、自治体保健師は、災害時保健活動の経験者が減少する一方で、コロナ禍により通常の保健師基礎教育や保健活動の経験を積むことが困難であった新任期や中堅期前期の保健師が増加し、今後、発災時に自治体の保健医療福祉体制を維持することが困難になる可能性が予測されます。

新任期から管理期までの保健師が、経験の有無に関わらず、災害現場の活動について具体的なイメージを描き、災害対応能力を高めるための方策について、一緒に考えていきましょう。

日時：令和7年1月4日（土） 14:20～15:40

場所：ウインクあいち（愛知県産業労働センター）

5階 第3会場 小ホール2

内容：講話&ディスカッション

能登半島地震での活動で
統括保健師の立場での経験や
新任期保健師の混乱と思い

申込不要

講師 石川県能登北部保健福祉センター

健康推進課長 新谷アサ子氏

全国保健師長会 前会長 松本 珠実氏



災害時の保健活動推進マニュアルの活用
作成時の思いなど

災害時保健活動の経験から得た知見を伝承・発展させることで、災害等の危機管理時に新任期保健師でも元気に活動できるヒントが得られるワークショップを行います。みなさん御参加ください。

ワークショップの参加には、第13回日本公衆衛生看護学会学術集会の参加申込が必要です。詳細は学会ホームページをご覧ください。

お問い合わせ

